
最後のワザだぞ！

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後のワザだぞ！

【Nコード】

N3281X

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

じんちゃんと仲良しのジュン。
今日は病院に行ったんだ。

（前書き）

リン先生との五枚企画です。

今回は寝る前に子どもに読んで聞かせたいお話。

僕はきらら幼稚園の年長さんだよ。

友だちはじんちゃん。ボクはジュンだよ。

幼稚園のダブルJのいたずらっ子って先生が言ったよ。

何だか呼び名がカッコいい。

二人で仲良く遊んでるの。

女の子のスカートはパツとめくっちゃう。

「きゃあ、エッチ」

そう言うけど、みんな喜んでるよ。

でも、園長先生にそれやったらめちゃくちや叱られた。

じんちゃんがやめとけって言ったけど、園長先生のスカートがヒラヒラしていたもん。

ピュツてめくったら、毛糸のパンツはいてた。

「こらーっ！」

迎えに来たママは園長先生から散々注意されて、ボクのおやつはその日消えた。

そんなある日、じんちゃんが休んだ。

「じんちゃんは喘息でお休みです」

つまらないなあ。

次の日も次の日も、そのまた次の日も休んだ。

もう、ボクは退屈で死にそうだった。

土曜日になって、ママがお腹が痛いから病院に行った。

暇なボクもついていったんだ。

見たよ。

いたよ。

じんちゃんが。

ボクの大好きな友だち。

何だか具合悪そうにじんちゃんママにもたれている。

ボクはじんちゃんの前に行ってピースサインをしたよ。

元気なさそうに手はピースするじんちゃん。

ボクは変顔して見せた。

幼稚園で一番受けるやつ。

目は小指で引っ張って、鼻は親指で持ち上げて、真ん中に目を寄せるんだ。

ユリちゃんなんか泣いて喜ぶよ。

じんちゃんはぐったりしていて少し口が笑っただけだった。

じんちゃんのママはこう言ったよ。

「ジュンちゃん、お顔が元に戻らなくなっちゃうわよ」

ボクは最後の必殺技を見せた。

ズボンとパンツをおろしてお尻の穴を見せるんだよ。

これは滅多にやらない技だけど。

「ハハハ、ジュンちゃんのバカ」

そう言いながら笑ったよ。

すると、ママが真っ赤な顔をして走って来た。

「ジュン！」

ボクの頭を持ってた薬の袋でバシッて打った。

「あなたという子は！」

ママはボクの手を引きずって家に連れて帰ったんだ。

あまりの剣幕にボクはびっくりしちゃって、ママの泣いてる姿をじっと見るしかなかった。

ママは情けないって言いながら泣いたよ。

この前園長先生に叱られたばかりなのにつて。

そうだった。園長先生のひらひらスカートをめくっちゃったつけ。

すると、パパが帰ってきた。

ママが泣いてるのを見てパパはどうしたんだいとママに聞いたよ。
「ジュンったら、もう病院でパンツまで脱いで人にお尻を見せてる

の」

それを聞いてパパはびっくりした顔でいたけど、噴き出したよ。ボクはすごくホッとしたけど、ママは違った。

「パパが甘やかすから変なことばかりするのよ」

パパまで怒られそうになって、もうボクはどうしていいのか分からなくなった。

「ママ」

優しく呼んでもママは振り向いてくれない。

パパはその様子を見ながらこう言った。

「ジュン、じゃパパも明日からパンツをはかずに会社に行こうかな」

「えっ？」

「人前で恥ずかしくないんだろ。パパもそうしよう」

幼稚園でどれだけ笑われるだろう。

ユリちゃんだけでなくみんなにバカにされる。

「ジュンちゃんのパパふりちん」って。

「ダメだよ。大人がそんなことしちゃいけないんだよ」

「子どもも大人も関係ない。パパは明日からネクタイ締めてパンツははかない」

「やだやだ！ そんなのやだ！」

パパはボクを膝に載せてくれた。

「じゃ、どうしてそんなことをしたんだい。悪いと分かっているのに」

「パパ、パパ、あのね、じんちゃんはずっとお休みしてた」

「ああ、あの仲良しか」

涙が出てきちゃった。

しゃっくりしてるみたいにヒックヒック言うよ。

「じん、ちゃん、ひっく、……が、ひさしぶりに、ひっく、び、病院で、会え……たの」

ママが泣きやんだ。

ボクを見てるよ。

パパに話してるんだけど、ママを見ながら言ったよ。

「げん、ひつく、きがなかった……から、笑わせ、たかつ、たの」
ママがまた泣きだしちゃった。

「あーん、ママ、泣かないで。もう、しません。ごめんなさい」
ママがボクをパパの膝から抱きあげてくれた。

「そうだったの」

ママはそう言うのと頬ずりしてくれた。

いつもの優しいママだ。

あーん、ボクこんな泣き虫じゃなかったのに。

今日は泣いてばかり。

ママが耳元で囁いた。

「お兄ちゃんになるんだからしっかりしてね。もうパンツ脱いだりしないのよ」

パパがひゃっほーって叫んだよ。

「えっ、ボク、弟ができるの？ 妹？」

「さあ、どっちかな」

ボク、もうお尻は見せません。

でも、じんちゃんが笑うほどの技なのになあ。

残念だなあ。

（後書き）

童話です。

と思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3281x/>

最後のワザだぞ！

2011年10月24日13時09分発行